

(様式 1-1)

調査研究 新規計画書

平成 26 年 6 月 13 日作成

研究者 (所属・氏名) : 環境部 谷口 佳文

研究課題名 (新規)	福井県におけるオキシダント高濃度予測手法の構築			コードNO.
共同研究者 (担当分野)	吉川昌範 (統括調整)			
研究期間	平成 27 年度から 28 年度まで (2 年間)			
研究予算 見込額 (千円)	全体	年度	年度	年度以降
	0			
研究のニーズ (県民・行政)	ニーズ種類 : <input type="checkbox"/> 県民 <input type="checkbox"/> 行政 その他 () ニーズ根拠 : 大気汚染防止法 (第 22 条 (常時監視)、第 23 条 (緊急時の措置)) ニーズ内容 : 高濃度時の速やかな対応で県民への健康被害を軽減する			
研究目的 および 必要性	福井県独自のオキシダント高濃度予測手法を確立することで、予告や注意報発令に向けた準備体制を速やかに構築することが可能となり、健康被害軽減につながる。			
従来の経過 または関連 分野の状況	○主な広域オキシダント予測システム ・大気汚染予測システム VENUS (国立環境研究所) ・光化学スモッグ気象予測モデル (気象研究所) ○「光化学オキシダント等の越境汚染に関する調査研究」において、上空における汚染物質の蓄積が本県のオキシダント高濃度に影響を与えることが示唆された。			
研究内容 (方法および 計画)	○平成 27 年度 越境汚染が顕著となった H12 年以降の本県におけるオキシダント高濃度時の要因解析 (因子の抽出)。 ○平成 28 年度 予測手法の確立。			
研究の特色	○ x 高濃度に応じた予測手法の構築は本県初である。			
期待される 成果	1. 高濃度日を予測することで、予告や注意報発令に向けた準備体制を速やかに構築することが可能となる			
	2. 上記により実際に注意報等が発令された場合に速やかに県民への周知を行うことが可能となり、健康被害軽減につながる。			
外部 (県民等) への効果的な 発信への考え (予定)	学会発表や所報での成果報告を行う。(予定)			

年度の 所要経費 (概算)	1. 報償費 2. 旅 費 3. 需用費	千円 千円 千円	4. 使用料および賃借料 5. 備品購入費 6. その他	千円 千円 千円	合計 0 千円
備 考					